



報徳@なう

発行人:田嶋 享



フードドライブがさらに拡大 そして もっと拡大を!!

このところ、フードドライブ活動の一環として、食品をご提供される企業・団体が出てきています。3月30日に富士フィルムビジネスイノベーション(株)元富士ゼロックス(株)竹松事業所様から、3月31日にはさがみ信用金庫様から、そして4月6日には相洋高等学校様からご提供頂きました。本当にありがとうございました。

相洋高校様からは、付き添いの先生とともに生徒会長の向山様、副会長の遠藤様・刀称様にご持参頂きました。いずれの団体も、SDG's



相洋高校の3人と
当センター本岡副理事長



山のようにたくさん頂きました。

の活動を標榜されています。SDG'sの目標中に「食品ロスの削減」があります。そして「貧困・飢餓の撲滅」もあります。この日本の中に、食品の大量廃棄もあれば、その日の食事に困る人々もいます。余った食品をご提供頂き、それを生活に困っている方々に配るという活動を私たち報徳食品支援センターは行なっています。皆様方の「SDG'sへ貢献活動

にお手伝いさせて頂いています。私たち報徳センターをもっともつと利用して下さい。

なお、私たち忙しくなるのは、大歓迎ですが、一つだけお願いがあります。できれば食品を有効期限月別に仕分けしていただけるとありがたいです。期限切迫品から先出ししたいからです。

ウクライナ避難民を支援しよう



神奈川県は、黒岩知事が率先してウクライナ避難民支援に力を入れようとされています。

その中で、着の身着のまままで逃げてこられたウクライナの方を、箱根町は、地元の企業と連携して、他に先駆けて受け入れていられます。

素晴らしいことです。そして、私たち報徳食品支援センターもこのような支援の動きに呼応して、就職し、給料をもらうまで当面の食料の提供をいたしました。どのような食料が必要なのか、分かりませんので、ご本人に当センターまでお越し頂きました。



当センターでの写真。右側の方です。

私たちは、困っている方のお手伝いをする心をかけています。そして、日本に避難されてきたウクライナの方々も例外ではありません。

皆様も、テレビを見ながらウクライナの惨状に心を痛めていられると思います。戦乱のウクライナから日本のこの地域に避難されてきた人たちを、一緒に支援していきましょう。

ヤマト運輸から保冷軽トラック!!

ヤマト運輸(株)様から、保冷軽トラック一台を本年2月に寄贈していただきました。

当センターは、保冷品、冷凍品の輸送・保管が多く、冷凍庫等を当センターだけでなく、相手方の社会福祉協議会や役場にも貸与・設置しています。(冷凍庫購入費用は、福祉団体の補助金で対応しました。)さらに、外部の保冷倉庫も大量入荷の際に、安くお借りしています。

さらに衛生上、「配送」も保冷対応が望ましいということで、保冷車を探しておりました。ヤマト運輸(株)様のご高配により実現することになりました。まことにありがとうございました。新しいコロナ禍の中ですが、当センター本岡副理事長がヤマト運輸(株)様の本社を訪ね、御礼を申し上げました。



ヤマトHD(株)瀬戸特別顧問様(左)と当センター本岡副理事長

早速、3月に厚生労働省の「ひとり親家庭等の子どもの食料等支援事業」対応の輸送にフル活躍してくれました。一日に5回も食品を満載して、引き取り・配送を行いました。同時に寄贈頂いた保冷バッグも大活躍でした。なにせ保冷車だけでは運送しきれなかったからです。(詳細は次記事)

これから陽気も暑くなってきました。さらに保冷軽トラックの活躍の場が広がります。

厚労省の「ひとり親家庭等の子どもの食事に等支援事業」で大忙し

今年1月に成立した国の補正予算で、「ひとり親」で「困窮状態にある」家庭とその子どもにも食品を提供する事業が採択されました。支給金額で食品を買い、それを対象の家庭とその子どもに支給する事業です。二月二十八日に報徳食品支援センターの他小田原市母子寡婦福祉会、箱根町やまざくらの会、開成町つくしの会、大井町おむすびの会のひとり親家庭の会などが実行団体として認められました。ありがたいことですが、年度末の三月三十一日迄に食品を購入して配布を完了する事が条件でしたので、忙しい毎日が始まりました。当センターは、小田原市母子寡婦福祉会と一緒に取り組み、270家庭440人の子ども達に配ることになりました。

一家族当たり一万円、加えて子ども一人について二千五百円の予算で詰合せの食品を作ります。お店との交渉では、詰め合わせを協力いただく事が条件です。さらに購入する日を5%割引の日にしてもらいましたが、主婦である当センター女性スタッフが交渉役で大活躍しました。手作りお菓子、小田原市内の障がい者施設 竹の子学園様と宝安寺社会事業部様にお願ひしました。ウクライナ戦争の影響が業務用小麦粉の入手にいたくご苦労されたそうです。

お店からの商品引き取りは軽トラ・保冷軽トラ各1台さらにフゴン車2台で引き取りです。それを3往復しました。荷の積み卸しも含めて、

一日がかりでした。そして、仕向地別に複数のお店で買った食品の詰め合わせ作業です。そして、発送です。遠いところでは真鶴町社協まで保冷トラックで運搬しました。山北町役場へも配達しました。南足柄市社協へは3往復しました。搬入搬出をやって頂いた人たちは、お疲れ様でした。多分筋肉痛で大変だったと思いますが、「300万円もの食品を保冷車や軽トラで運び、ひとり親家庭の方々のお役にたてたことはボランティアとしてやりがいのあることでした。」との感想をいただきました。また、箱根町・二宮町両社協他は取りに来てくれました。

また、配布の実務を担当された各市町の社協・役場・支援組織の皆様お疲れ様でした。

そして喜びの声



食品の配布は3月25日頃から始まりました。抱えきれないほどの量です。皆さん大喜びです。

ちようど子どもの春休みです。三食用意しなくてはなりません。その上入学・進学でなにかと物いりです。この時期の食料支援は、大いに歓迎されました。なによりも、レトルト食品・冷凍食品は、働くお母さんの味方です。そして、配布品のお菓子に子どもたちが大喜びでした。子どもの喜ぶ顔を見ると親もがんばる元気が湧いてくるようです。

以下アンケートにお答え頂いた方たちのご意見です。数件ご紹介します。

母親：「サラダ油やパスタなど、常に購入してい

る食材が入っていたので嬉しかったです。小学生の息子はビニール袋に入ったお菓子を見て『おおっ!!』と喜びの声を上げていました。」

息子：「食べ物やお菓子ありがとうございました。お蔭で、朝・昼・おやつ・晩とお菓子が食べられたので夢のようでした。」

「食品価格が高騰して、夕食の品数が減っている中、とてもありがたい品々でした。子どもも春休みに入り、昼食に簡単に作れるスパゲッティソースは嬉しかったです。新鮮なごぼうとんじんで子どもと一緒にきんぴらを作りました。子どもは自分で作ったきんぴらをとても気に入っていました。」

「シングルマザーでの初めての出産で、生活に不安が多い中、多くの食品を頂けたこと、本当に心強かったです。物価が上がって、苦しかったので助かりました。食品の定期的配布があれば、より子育てがしやすくなります。」

「離婚してちようど一年が経とうとしています。が、つらかった頃の気持ちは今も残っています。こうして手を差し伸べてくれる方たちがいることで、いろいろ救われますし、前を向いてがんばっていきこうと思えました。」

失業・離婚等で苦しい生活の中で子育てをしている方たちに、もっと支援が必要です。今回の厚労省の「ひとり親家庭等の子どもの食料等支援事業」はすばらしかったです。またお願ひします。

久しぶりに2ページ分作成しました。来月号は、2022年度活動実績を掲載します。 編集者